

PLUS

Best Car
いいクルマに“プラスα”する。

クルマで遊ぶ、ひらめく、熱中する!!

定価880円

2016年5月18日増刊号

【ベストカープラス】

講談社ビーシー / 講談社

5

そのクルマ10年以上、愛せますか?
飽きないクルマは
何が違うのか?

クルマがあれば些細な日常も楽しい!
毎日を刺激的に
するアクション

“ホンモノのクルマ”はここが違う!

人生を変える クルマ

Special Interview

片岡孝太郎 [BMW 523d]

中西哲生 [TOYOTA プリウス]

パパイヤ鈴木 [ABARTH 500]

伊藤かずえ [NISSAN シーマ]

竹内洋岳 [SUBARU レガシィ]

伊藤辰徳 [Alfa Romeo 156]

[名門ブランドを考える]

世界の「超一流」を
知りたければ
ベンツに乗れ!

[巻頭特集]

ポルシェは
難しくくない

品川302

1-47

ポルシェは 難しく ない

ポルシェというクルマを語る時、クルマ好きはその存在をある種、神格化しようとする。その歴史、レースでの活躍、そして市販モデルの高性能。しかしそれらはポルシェが持つひとつの側面にすぎない。スポーツモデルである911さえ、街中では意外な扱いやすさを見せる。そんなポルシェの別の側面に迫っていききたい

Photo || 藤井元輔



4
91



どの速度域でも安全で安心できる操縦性を提供する。そうした
点でポルシェは難しくない、ともいえる——黒澤元治

ポルシェは難しくない……。ポルシェの何が難しくないのか？ 多くの読者がまずは疑問に思うのがこの点だろう。

運転することが難しくないのか？ 手に入れることが難しくないのか？ それともポルシェというクルマを成立させる哲学というかポリシーがわかりやすく、シンプルで難しくないということなのか、今回のテーマは簡単でいて難しい。

運転すること、操縦すること、これについては一概に難しくないとはいえないし、買うことも経済的にある程度余裕がないと難しい。ただ3番目のポルシェの哲学というのはわかりやすい。ポルシェの心臓である数々の革新的なエンジンを生み出してきた天才設計者ハンス・メツツガーの言葉を借りれば「いかなる条件下でも、いかなる速度でも、ポルシェ以上に安全で、安心して走れるクルマはない」のがポルシェの哲学で、この考え方は確かに難しくない。

しかし、そこに到達するには信じられないほどの情熱と膨大な資金と熟練した技術とたゆまない努力が積み重ねられてきたことを忘れてはならない。

私はポルシェから多くのものを学んできた。あれは83年のことだったと記憶している。当時ブリヂストンが世界市場を目指す手がかりとして、「ポルシェ認証」タイヤの開発に取り組んでいた。ポルシェの量産車で最高峰の911ターボがテスト車として用意され、それを富士スピードウェイで走らせる。それが私とポルシェ911ターボとの出逢いで、その圧

倒的パフォーマンスを思い知らされた。

とにかくRRだからリアが重い。慣性モーメントでリアが出たがり、コントロールが難しい。だがクルマを御したときのドライバーとしての醍醐味。この手強いポルシェが認めるタイヤに仕上げるための「いい意味での闘争」が始まった。

そして舞台は富士から新たな場所に移る。そのときから、ポルシェが開発テストを行っていたニュルブルクリンクでの日本メーカーのテストが始まったのだ。今の日本車の飛躍的な進化は、これがきっかけだったといって間違いはない。

それから約33年。ポルシェは毎年進化を続けている。ポルシェは新しく下のリンクのモデルを投入する時、上級の次期モデルは、ダイナミクスで劣っていた性能を必ず超える。それがポルシェのプライドであり、他のメーカーの追従を許さないところでもある。たとえ小さな部分でもきっちりファイナインチューニングし、絶えず進化させる。その積み重ねこそポルシェの進化の秘密でもある。

そうした改良によって、どの速度域でも安全で安心できる操縦性を提供している。そうした点ではポルシェは難しくなく、ともいえないもない。サーキット走行を楽しむポルシェファンにとっても、他の同等の性能を持つライバル車と比べても、ドライビングテクニクは、難しくないだろう。それこそポルシェの哲学なのだ。

その「難しくなさ」を一度体験してみることがお勧めしたい。



ラインアップが充実する「今」のポルシェの魅力が詰まった『PORSCHE PRIDE & PROGRESS 偏愛グラフィティ』（編/ベストモータリング同窓会 発行/有峰書店新社）。「最新のポルシェは最良のポルシェ」なのか、黒澤元治&中谷明彦の2名の伝説的ドライバーが検証する。 定価：本体1600円（税別）

「第5回ベストモータリング同窓会in東京・代官山&箱根・大観山」が、4月22日、23日に開催される。22日は代官山の蔦屋書店にて黒澤元治氏、大井貴之氏を招いてのトークショー。翌23日は大井貴之氏、桂伸一氏を講師に迎え、MAZDAターンプイク箱根を舞台に、走りトークがたっぷり楽しめる。ふたつは別立てのイベントだが、できれば通して参加したい。参加費用などの詳細は<http://minkara.carview.co.jp/calendar/21040/>を参照